

池松靖之

2 日間とも「晴れ、風午前北 1~2m、午後南 2~3m」という天気予報の中、実際ほぼその通りの風が吹きました。午前中は左、午後は右が上というコース設定で、北から南に変わる間は、1 レース中に風が左右前後から吹く状態もありましたが、完全に止んでしまうことはなく 2 日間で 17 レースを消化できました。

ほとんどの艇がスイングの A リグ使用で、(自身 17 レース中 B リグ 1 回以外すべて A リグ) スタートの良し悪しと風の読みがレースの鍵だったと思います。スーパー A リグ使用時の宗助艇(微風、2015 年メロンカップ優勝)とコンベンショナル使用時の岡田艇(順風以上、昨年度優勝)をマークしていましたが、風に恵まれ(?) いずれのペースにも持ち込まれなかったのが勝因でした。

全 14 艇同時レース方式の中、「原則、上 1 エンドからのスタート」に徹しました。

言うまでもなく、RC ヨットレースでは、コース長に対する艇長の比率が実艇レースよりも大きく、スタートラインの角度がよほど下に振れていない限り上エンドが有利です。ポートでスタボ艇をかわせない限り、第一上マークまでのレグで、下側の艇はタックができずにオーバーセールのゾーンまで追いやられていくしかありません。さらに、この傾向は艇数が多いほど顕著になるわけです。

同時に私はこの戦略をとるにあたって

- 上 1 スタートできたときは抜かれるな(船を走らせろ)!
- 無理して上 1 スタートにこだわらず上 2~3 でも良しとしろ(絡んだら終わり)!
- 失敗して混戦に巻き込まれても「落ち着いて」風を読み(挽回のチャンスは有る)!

と常に心に言い聞かせていました。

全日本での優勝は、2002 年に愛知県碧南市水上スポーツセンターで行われた第 11 回 36/600 大会以来となります。当時のラジコン技術に掲載された写真を見るとスイングリグは見当たりません。記録によると第 12 回大会は石川氏が優勝されていますが、これは初めてスイングリグが 36/600 全日本を制した大会で場所は確か丹野池であったと記憶しています。私のスイング艇は 3 年前に開発を開始し、昨年ようやく完成したものです。「36/600 の聖地」丹野池での優勝は、自身にとってのラジコンヨットライフにおける久々の快挙であり大変嬉しく思います。

艇の開発にあたってターゲットとしたのは、石川艇(関東では石井氏が所有)と岡田艇(HP でも公開されている JAZZ)です。コンセプトは、トールリグとロングキール着用による「パワーセイリング」(勝手に自分で名付けた)で、前側重心傾向のオリジナルハルは雌型で製作しました。現在まだ prototype (試作) 段階であり、目下の課題はキール長の調整で、フリーでのスピードアップのためあと数センチ短くすることを検討中です。

最後になりましたが、大会を運営、サポートしていただいた池田氏、兵藤氏ならびに静岡支部丹野池協会の皆様、心から御礼を申し上げます。有難うございました。